

タブレットペンでのサイン



タブレット上での文字学習用のペン

青色が、タブレットペン。

赤色は、同シリーズのシャープペン。

同様に、指の位置をガイドするくぼみがある。



ピンク色は、ボールサインペン。
指の位置をガイドするくぼみが、
くびれたように見える。

タブレットペンは、とても書きにくいのですか。

私の場合は、気持ちが悪くなります。書字動作と、それが画面に投影されるまでの時差が原因です。

時差があるので、普段の字形とも異なります。

だから、タブレットペンでサインを求められると、拒否してしまいます。字形もタッチも、自分のとは異なるのに、それがサインになるのですか、と不満が口から飛び出すこともあります。この反応は、過敏かもしれません。

そうこうしているうちに、下記のような文章を見つけました。

タブレットには、(中略)入力を支援するための道具として電子ペン(引用者注；タブレットペン)がついている。この電子ペンで子どもたちに液晶画面の上に文字や図を書かせ、それを電子的に保存させようというのである。

利用したことがある人ならば誰もが気づいたであろうが、電子ペンを液晶画面の上を動かしても、紙と鉛筆の間にあるような「摩擦」がない。そして、電子ペンでは脳が「書いた」と思う瞬間からワンテンポ遅れて画面上に文字が現れる。時間でいうと、0.1秒を切るとされるこの「ワンテンポ」が脳にとって致命的に遅く感じられる。また、文字の大きさを鉛筆ほど正確にコントロールすることができない。(中略)画面の面積の制約から、複雑な考えを一画面に表示することができない。現在のところ、電子ペンは持ち運びの便利さがデメリットを上回るシーンで活躍する道具であり、定番の筆記用具として利用できる段階に達したとは言い難い。

新井紀子著『ほんとうにいいの？ デジタル教科書』P21
(岩波ブックレット 2012年)

上記は、国立情報学研究所に勤務する新井氏の文章です。情報学の研究者も検討していることなのだと少しほっとしました。

また、最近になって、タブレットペンの先端にゴムが装着されたものが出てきました。これで書くと、必要以上の「摩擦」が生じます。その「摩擦」は、私にとっては、無いよりはまし、というほどのものであります。

しかし、タブレットペンの書き心地に関して改良が試みられていることは確かだということがわかります。

ドイツでは、子ども用のタブレットペンには、子ども用の鉛筆同様に、指の位置を教えるくぼみがついています。日本製品では、見たことがありません。ドイツ人は、タブレットペンの持ち方も、「ゆるがせにしないのだ！」とびっくりしました。